

## 英語を「書く」から「話す」に通じる英訳のコツ7か条

桂 邦彦

### はじめに

英作文(和文英訳)を教えるのは難しいとお感じになられている先生方は多いようだ。英作文の問題集や書籍を見ると、難しい日本語をそのまま英訳しているような解答例が多い。しかし、日本語と英語は全く逆の特徴をもつ言語なので、それには違和感がある。言葉はコミュニケーションの手段なので、英作文では「日本語の解釈」が重要なポイントになる。

英語を書く活動は、当然スピーキングにおいても当てはまる。書けない英語は話せない。つまり、ライティングは、スピーキングの基礎になり、スピーキングは瞬間的なライティング能力を高めることで、大いに向上する。英語を書く時には、「初めから話すつもりで書く」習慣を生徒につけさせることが大切だ。日本語と英語の特長をふまえ、授業で実践してきたことを以下に述べる。

### 1 日本語と英語の特長

日本語の特長	英語の特長
(1) 文構造が複雑である。	文構造が簡単である。
(2) 名詞に重要な意味が含まれる。	動詞に重点が置かれる。
(3) 1文に複数の情報が含まれる。	1文に1情報が基本になる。
(4) 受動態や否定文が目立つ。	能動態や肯定文が基本になる。
(5) 漢字表現など特有で難しい表現が多い。	具体的でやさしい表現が多い。
(6) 修辭的な表現が多い。	日本語にあるような修辭的な表現はない。
(7) 説明が先で結論(主張)が後になる。	結論(主張)が先で、説明は後が基本になる。

この表からも明らかなように、日本語をそのまま英訳しても「自然な英語」にはならない。

### 2 英訳のコツ7か条

#### (1) 日本語のメッセージを訳す。

日本語をそのまま英訳しようとせず、「文のメッセージ[趣旨]は何か」を考えて、自信のあるやさしい表現で書けばよい。例えば、「兄はときどき在宅勤務をします」で考えてみよう。「在宅勤務をする」は「家で働く」と言い換え、「work at home」とする。My brother sometimes works at home.と簡単に表現できる。このようにすれば、簡単に表現できる。コミュニケーションのスピードが上がり、「言葉のもつ本来の目的」に合致している。さらに次の日本語で考えてみよう。

- ・「駅前の本屋へ立ち読みに行くところだよ」(高校の友人に道でばったり会って)  
まず2文に区切り「駅前の本屋へ行くところだ」と「そこで立ち読みをする」。英

語では、命令文以外は主語を必要とする。主語は「私(俺)」。第2文は下線部が英訳のポイント。文意をふまえ、「(私は)立って本を読む」。「立ち読み」は無料。I'm on my way to the bookstore in front of the station. I'll stand and read books (for free) there.

## (2)日本語と英語の構文は同じである必要はない。

名詞に重要な意味が含まれる日本語と、動詞に重点が置かれる英語では、英訳後に同じ構文にはならないのは当然のことと言える。大事なことは、2つの言語の特長をふまえて英訳することだ。次の2つの日本語で考えてみよう。

### ・「父の田舎は瀬戸内海にある小さな島です」

下線部が英訳のポイント。日本語の名詞表現は、直訳せず「『主語 + 動詞』の文」に言いかえると英訳しやすい。文意から「父は生まれ育った」と考える。全文を「父は瀬戸内海にある小さな島で生まれ育った」と整理する。My father was born and raised on a small island in the Seto Inland Sea.

### ・「ここは駐車禁止だよ」

下線部が英訳のポイント。下線部を文で言いかえる。主語は「あなた」、動詞は「駐車してはいけない」。全文を「あなたはここに駐車してはいけない」と整理する。You must not park here.

## (3) 1文1情報が基本である。

長い日本語を英訳するとき、「1つの文に1つの情報(1文1情報)」を基本に据えて、日本語を区切り整理する。短い文であれば書きやすく、瞬間的なライティング能力を高めることが可能になる。読み手[聞き手]に結論[主張]がより速く伝わり、コミュニケーションのスピードが上がる。次の日本語で考えてみよう。

### ・「君が昨日会った井手さんは、桂先生の叔母さんなのよ」

まず、2文に区切り、英訳しやすいように「君は昨日井手さんに会った」と「彼女は、桂先生の叔母さんなのよ」と整理する。You met Ms. Ide yesterday. She is Mr. Katsura's aunt. 1文で、Ms. Ide, who you met yesterday, is Mr. Katsura's aunt.としてもよいが、構文が複雑になる。「短い英文を書く」ことを、生徒に意識させることが大切だ。次にもっと長い文で考えてみよう。

### ・「運転中にスマートフォンを使うことが原因で、交通事故が増えているという新聞記事を、先週読んだよ」

文意をふまえ、3つに区切り整理する。「何人かの運転手は運転中にスマートフォンを使う」、「このことがより多くの交通事故の原因になっている」と「私はそのことを先週新聞で読んだ」。新聞記事は「新聞」でよい。同じことである。Some drivers use smartphones while (they are) driving. This causes more traffic accidents. Last week, I read it in a newspaper.

#### (4)できる限り能動態で肯定的に表現する。

英語は相手を説得する言葉で、力強い感じを与える能動態や肯定文で表現するのが基本である。まわりくどく弱い印象を与える受動態や文意が弱くなる否定文を好まない。

一方、日本語では受動態と同様に否定形で質問する場合も多くある。これらの表現は控え目で自分を前面に押し出すのを嫌う日本人に好まれるからだ。次の2つの日本文で考えてみよう。

- ・「昨日、母親の買い物に付き合わされたよ」

「誰が(母親が)誰に(私に)」が明確なので、「昨日、母親は私と一緒に買い物に(無理やり)行かせた」と能動態にする。My mother made me go shopping with her yesterday.

- ・「あんな美しい橋は見たことがないね」

肯定文で「あれは私がこれまでに見た最も美しい橋だ」とし、That is the most beautiful bridge I've ever seen. もちろん I've never seen such a beautiful bridge.としてもよいが、常に英語のニュアンスや特徴を念頭に置いて英訳することが大切だ。

#### (5)「漢字表現」や「日本語特有の表現」はやさしい日本語になおす。

難しい漢字表現や日本語特有の表現をそのまま英訳しようとせず、「メッセージは何か」を考える。そして、「子どもに説明する」ようにやさしい「『主語 + 動詞』の文」で表現するとよい。次の2つの日本文で考えてみよう。

- ・「姉は甘党なんだ」

下線部を子どもにも理解できるような、「やさしい文」に言いかえる。「甘党」は、「(姉は)甘いものが大好き」でよい。My sister loves sweet things.漢字表現(名詞表現)を英訳する場合は、日本語をそのまま英語に直すという先入観を捨てることだ。

- ・「父は暑がりだ」

子どもに説明するようにやさしい文で下線部を言いかえると、「暑がり」は「(父は)暑いのが大嫌い」でよい。My father hates the heat. 英訳するときの「発想」を変えれば、思った以上に、速く簡単に英語が書けると実感するはずだ。

#### (6)修辭的な表現は省略する。

日本語では修辭的な枝葉表現をよく使う。「軽く、ちょっと、」など「ちょっとした意味合いの表現」、「とりあえず、せつかくですので」など「前置きのつなぎ表現」、「お口に合うかどうかわかりませんが、たびたびすいませんが」など「相手に対し、へりくだって使う表現」などは英語に訳さない。次の3つの日本文で考えてみよう(下線部は訳さない)。

- ・「軽く公園までジョギングしてくるよ」

I'll go jogging to the park.でよい。

・「とりあえず部屋に入って休憩をしてください」(仕事などを手伝ってくれた人に対して) Please enter the room and (take a) rest. とする。

・「お口に合うかどうかわかりませんが、私の焼いたクッキーです」

「私の焼いたクッキーです」は、人を主語にして「私はあなたのためにこのクッキーを焼きました」と整理する。I baked these cookies for you. とする。この場合、相手に対する自分の気持ちを込めて、I hope you enjoy them. 「クッキーを美味しく食べてくれることを願っています」と言葉を添えるとよりよくなる。日本語のように、相手の言葉からその人の気持ちを察するのではなく、英語では言ったことしか伝わらないからだ。

#### (7)「結論(主張)が先で説明は後」が基本になる。

日本語での説明を聞いていて、話し手は何が言いたいのだろうと、多くの人は感じたことがあると思う。それは、おそらく説明が先にきて、結論(主張)が後回しになるからであろう。しかし、英語では結論、つまり「最も言いたいこと」が最初で、説明(詳細や理由、補足事項など)は、その後になる。これは会話、メール、レポート、プレゼンテーション、論文など、全てのコミュニケーションにおいて同じである。次の2つの日本文で考えてみよう。

・「柿はビタミンCを多く含み、体によい」

結論は、「柿は体によい」。説明は、「ビタミンCを多く含んでいる」となる。

Persimmons are good for the health. They have a lot of vitamin C. 日本文の順序で書いてもよいが、この方が英語の発想に合致する。

・「弟はお調子ものだからクラスの人気者だ」

結論は、「弟はクラスの人気者だ」。説明は「彼はお調子ものだ」。「お調子もの」は「いつも(人を)笑わせる」と考え、「彼は級友をいつも笑わせる」とする。

My brother is very popular among his classmates. He always makes them laugh.

常に日本語と英語の特長を念頭に、英訳することが「英作文上達のコツ」だ。

#### おわりに

日々の授業を通じて、生徒の質問に答え、ノートの英文を添削し、励ましてきた。生徒から教わることも多くあり、振り返ってみると充実した日々だったと実感している。この実践が先生方の日々の授業展開に少しでも役立つのであれば、このうえない喜びである。